

(3) 高井 譲（一般社団法人クレイドル、元西東京市みどり公園課長）

最後に、一般社団法人クレイドルの高井譲さんから「市民が主役のまちづくり」と題して、昨年度まで西東京市の職員として実際に取り組みられてきた市民協働のお話を中心にご紹介いただいた。



(高井譲さん／一般社団法人クレイドル・LBA幹事、元西東京市みどり公園課長)

(高井氏プレゼンテーション要旨)

①個人の課題を、地域の課題へ

地域の身近な公園を活用した市民が主役のまちづくりということで、最初にまちや地域の課題について考えてみましょう。皆様の身近なところの課題、困っていること、個人的に悩んでいること、改善したいこともあると思うんですね。課題、個人的な苦情や要望などを、話し合いや懇談会を通じて地域の課題ということでみんなのものにしていきます。一人だけでなく多くの人々が改善すれば、地域がより良くなり住みやすくなること、自分たちで協力してできることも考えていこうと。

まず皆様方の思いや要望、苦情などが出発点なんですね。そして市民の皆さんはお客様ではないので、市民と行政は問題解決するためのパートナーとして一緒に考えて二人三脚で活動していくということが大切です。そして市民協働を推進させていくと。

地域の課題

個人的な困りごと・要望



話し合い & 懇談会
(話し合いを通じて地域の課題へ)

100

公園での青空懇談会



②市民主体の活動から、市民の自己実現へ

市民ボランティア主体の活動として、たとえばこれ薪ストーブの会というのがあります。薪ストーブは愛好家が結構いらっしゃるんですよ。その薪っていうのは意外と高かったり、薪ストーブが好きな方ってアウトドアが好きなアクティブな方が多いので自分のチェーンソーを持って切りたい場所を探していたりします。樹木の伐採作業を、そういう方と一緒にネットワークを組んでやるんです。と樹木を切って、薪にして持って行ってもらう。ボランティアさんが主催でやられているので、そういう中で新しい会員も増えていくんですね。

あるいは、市の花コスモスを植えようプロジェクトでは、子供たちが自分で考えて、自分たちでボランティアに話を聞いていく中で、プロジェクトを自ら進んでやっていこうという話になったんですね。ボランティアさんがサポートしてくれるというのは、親や教師

以外からいろんなことを学ぶ機会になり、お子さんにとっては新鮮なんですね。またボランティアにとっても、子どもたち自分たちの技術を教えられるということで、大変喜んでらっしゃいましたね。やっぱり公園・緑地は自己実現の場だと思うんですね。

ボランティアによる樹木の伐採作業



ボランティアによるサポート



公園を活用、活性化するのは人なので、行政や公園管理者は皆さんが活躍できる場所を一生懸命つくっていくというのが大切だと思います。市民が主役の公園づくりは地域コミュニティの再生にもなってきますので。地域コミュニティを再生すれば、よりよいまちを皆さん方でつくっていくということになると思います。市民協働というのはまちづくりにおけるマーケティングともなります。事業者さんや市民の皆さんが、活動しやすいという、自分たちがやりやすい、そういうブランドを確立するとですね市民が主役のまちづくり、ひいてはエリアマネジメントに行くのかなと思います。

市民が主役のまちづくりで大事なこと

市民からの苦情や要望は、大切な出会いの場

■ 市民主体のまちづくりの視点

地方自治体とは、地域と住民（立法・行政・財政権）

■ 市民目線でのまちづくり ⇄ 市民の中へ

■ 市民の皆さんは、お客さんではない

■ 市民と行政は、問題解決のパートナー

行政と市民と一緒に考え、二人三脚で活動しましょう・・・

市民協働の推進！



(公園単体でなく周辺の環境や近隣の公園との兼ね合いも重要)